**「ぜいたくな贈り物」 2016年6月12日説教**

**E. Carl Zimmermann牧師**

**生きていく上で知っておいた方が良いことがある。**

**たとえば、ハバネロとうがらし10個をいっきに食べると、頭が爆発してしまう。**

**ラッシュ時にここから405でジョンウェインエアポートに行くなら、1時間以上かかってしまう。**

**1000ドルを持ってラスベガスに行くなら、一文無しになって帰ってくる。**

**生きていく上で知っておいた方が良いことがある。**

**そして、イエスが知っていなければならなかった事もある。**

**たとえば、高価な香油でイエスの足をぬらした女性は、ファリサイ人たちにとっては、潔白で美徳の模範にはなりえないことを、イエスは知っていなければならなかった。**

**ルカ福音書をさらに詳しく見ていきたい。**

**彼女は香油の美しい入れ物を運んでいたことはわかるが、それは雪花石膏(Alabaster)のつぼだったという人がいる。**

**雪花石膏というのは、軟膏やローションの入れ物に使われる鉱物である。**

**もし薄くカットするなら、雪花石膏は半透明になり、小さな窓にも使用できる。**

**注目すべきことに、雪花石膏は、ロサンゼルスの新しいカトリック教会に、非常に多く使われている。**

**聖書に出てくるこの女性は、高価な香油を高価なつぼに入れて持ち運んでいた。**

**しかし、ここで、この話の重要な点になるが、香油やつぼが高価であればあるほど、それらは、想像しがたい、並外れた、ぜいたくなイエスの愛に相当するようなものからかけ離れていく。**

**ではなぜ、「ぜいたくな」と言うのだろうか？**

**ひとつには、人間の愛は、先入観、不寛容、怒り、あるいは我慢の限界があるが、神の愛は、親切、慈しみ、寛容の中で養われ与えられ続ける。**

**神の愛とは、人間がおかす間違いに対して、善き行いを競争させるようなものではない。**

**けっして得点争いをするようなものでもなければ、慈善行為を何回行なったかを、一時間ごとに記録していくようなものでもない。**

**ただ、私たちを創造してくださった方がとても愛情深くずっと愛し続けてくださるという簡素な祝福だ。**

**それは、私たちを安心させ、慰めてくださる愛だが、また同時に、私たちに行動をおこさせる愛だ。**

**この愛は私たちがもったいないからといって密かに隠し持とうとするようなものではなく、逆に、自由に喜んで分け与えるもの。**

**アナバップティストというキリスト教の宗派は、赤ちゃんの洗礼を認めていないが、彼等は、国と教会がしっかり分けられているべきだと主張している。　決して暴力を肯定せず、彼等自身、祝福をそして神の愛をともにわかちあうことにとても熱心である。**

**1569年の寒い冬のことだったが、アナバップティストの一人、ダークウィリムスは、その宗教を信じているがゆえに、投獄されていた。**

**しかし、映画の中で描写されていた事だが、彼は何十ものぼろきれを結び合わせて、ロープを作り、牢獄から逃げた。**

**牢獄の周りには堀があり、薄い氷の幕でおおわれていた。**

**投獄中にあまりにも痩せてしまったため、ウィリアムズは、何事も無く、氷った堀の上を渡って急いで逃げていくことができた。**

**しかし彼を追いかけた守衛はかっぷくがよかった。**

**守衛は氷がわれて落ち、おぼれ始めてしまった。**

**ウィリアムズは、自由になるのに、ほんの数メートルのところだったが、ウィリアムズは引き返し、守衛を引き上げ、助けた。**

**このような状況こそ、とてつもない愛を示す、ぜいたくな愛のケースではないだろうか。**

**しかし、話はさらに続く。ほとんど死にそうになっても助けられた守衛は再び、ウィリアムズを捕らえ、牢屋に閉じ込め、数日後には、火あぶりの刑となった。**

**良い行いがうまくいくとは限らない例が他にもある！**

**10年前、一人の殺し屋がアーミッシュの学校の一室に入り、10人の女子生徒を人質にとり、そのうち5人を殺した。**

**彼女たちはチャールズロバーツの精神異常の無実の犠牲者たちだ。**

**そこには、他の犠牲者ももちろんいた。　殺害された女の子たちの親たち、またコミュニティ、また、チャーリの妻、マリーだ。**

**マリーとその子どもたちは、悲痛、嫌悪、そして悲しみに圧倒されてしまった。　しかし、その悲劇からまた、想像しがたい、突拍子もない、ぜいたくな愛を示すケースが生まれた。**

**その襲撃事件が起こった数時間後には、アーミッシュの男女のグループがマリーを訪ね、悲嘆、悲痛をともに分ち合った。**

**後に、マリーが著した本“One Light Still Shines(いまだに輝くひとつの光)”の中でその時アーミッシュの人々と会ったことを振り返っている。**

**「私と私の子どもたちを心配してくれている人々がいた、そして彼等は私たちを、いつどのようにしてでも、助けたいと思っていることを私たちに告げたかった。」**

**そして、もっと話は続く。。。。**

**何十人もの新聞記者たちがマリーの家に押し寄せて来たとき、アーミッシュの人々は、マリーの家を囲んで輪をつくり、彼女をフラッシュライト、カメラ、マイクから守った。**

**マリーが記述している、「彼等がしてくれたことは、驚くべきことだった。（夫が殺人を犯すという）とんでもない悪事に出会い、とてつもない心痛の中にあって、彼等は、親身となり彼等の愛を示してくれた。」**

**神の驚くべき恵みが、彼等の共同体をいかに助け、立て直したかがわかる短いビデオを見よう。**

**このビデオは今日の福音書箇所のポイントをまとめてくれている。**

**過去に陰がある女性にとって、それは不必要だった、、、、**

**高価な雪花石膏のつぼも、めずらしい香油も、、、、**

**それは、とてつもなくぜいたくな、それはもったいない、イエスの愛であり憐れみだ。**

**いくつかの質問をして今日のメッセージをしめくくりたい。**

**次にあげるもののなかで、だれでも持っているものは、何だろうか？**

* **17000ドルものダイヤモンドがちりばめられた赤ちゃん用おしゃぶり**
* **バージンギャラクティック社の宇宙行きのチャーター機**
* **40万ドルの特別仕様のフェラーリ**
* **2万4千ドルのビクトリア朝のおもちゃの家**
* **2百万ドルもする二人用の潜水艦**

**これらは、愛する人にプレゼントするもっともぜいたくな贈り物だ。**

**しかし、イエスは、こららの贈り物を全部あわせたって超えることができない、もっと突拍子も無い、もっとユニークで、もっとぜいたくな、贈り物を持っておられる。**

**その贈り物のことを、私たちは天の父からの無条件の愛と呼んでいる。**

**わたしたちはその贈り物をいただく価値はない、私たちはそのような贈り物を稼いだり、なにか良いことをすれば獲得できるわけでもない。**

**単に贈り物としてやって来る。**

**その贈り物を私たちは喜んで受け取り、分かち会う。**

**(要約 安達均)**